

何が問題なのか、本質がわかる良書を選ぶ

根本昌彦氏

未来予測ナリスト
未来予測研究所チーフアナリスト、上り金蔵のこうろ
ルテノク、未来を予測、人口が社会をどうマクか
将来後世に何を残すかという問いを繰り返す

環境問題の核心、現状、未来はこれだけわかる

1位 環境問題はなぜウソかまかり通るのか



2位 図解 地球の真実



3位 2050年脱温暖化社会のライフスタイル



「地球環境問題」を取り上げた本を目にする機会が増えている。アル・コア元米副大統領の「不都合な真実」は映画化され、大ヒットしたのは記憶に新しいところだろう。まさに今、アツいのは環境ノブの。

環境問題そのものは、さほど目新しいものではありません。誰もが一度は耳にしたことがある話題です。しかし、ここまで注目されるようになったのは、つい最近のこと。梅雨なのに全然雨が降らない。「異常なほどの猛暑や暖冬」など、身近なところで「ヤバさ」を感じるようになってきたのが大きい。

こう分析するのは、未来予測を研究する根本昌彦氏だ。「私たちが環境問題について関心を持つようになったトリガーは「不都合な

真実」だったと言えるでしょう。ただし、この本に引用されているデータは恣意的なものも多く、決して事実関係を理解しやすいように書かれているわけではありません。一言で言えば、プレゼン上手な人が書いた本。いいところは半分は政治目的で書かれたものでしょう。大々的に環境問題を取り上げているのは、欧米の金儲け屋を中心とする巨金儲け資本が環境をBRI（

カニズムが存在していた。単に「環境問題がヤバイ」と煽るだけの本は、あまり役に立たない。著

結局、何が問題なのかがわからず消化不良……

1位 不都合な真実
アル・コア ランダムハウス講談社

「不都合な真実」は、温暖化の科学的根拠が地球規模にまで脅かされたという一冊。環境問題に目を向けるきっかけづくりという側面では、真実がある本。ただし、使われているデータは、かなり都合の良いものばかりで、論理が提示されているわけにはない。むしろ、都合のいいデータばかりが強調されている印象が強い。

2位 地球の悲鳴 環境問題の本100選
岡 誠行 アサヒホール

環境に関する本のなかから100冊を選び、それぞれ紹介した本。環境問題に関する本は、紹介が理屈が不明で、また、その紹介も5行以内のものが多くある。結果として、100冊以上を挙げていたりと、あまりにも八字ハバラ。環境問題の本は、読むべき本は数冊しかない。

3位 45分 ストック型社会
岡本スズメ 電通出版

どうすれば、バラ色の未来を迎えられるのか。「ストック型社会」をキーワードに、未来のあるべき社会の姿を解説。フロア型社会からストック型社会への転換の必要性を迫っている。この本は、何が問題なのか、政府の役割、目標は何か、どうすればいいのか、イメージがわかない。

「日本の温暖化の現状」や「環境破壊のしくみ」などを写真や図、データをふんだんに使った解説している。環境問題が、一目でわかるのがこの本の利点。一目でわかるのは、向かっている方向が正しいか、あるいは、現在、向かっている方向が正しいかを判断する材料が豊富にある。環境問題は、初心者という人でも簡単に読めます。

ITを活用し、脱温暖化された社会では人々はどのような生活を送っているのか、50年後の理想的な未来像を05年生まれの五・五・五と紹介する。この本は、50年後の生活をイメージするための、読んでいてワクワクする本。

者などのような立場で、何を言おうとしているのか、つまり情報の潮流を把握できる本を誠心することが重要。その一例が「環境問題はなぜウソかまかり通るのか」です。よかれと思つてやっているエコ活動が、実はかえって地球環境を汚染しているかもしれないという危険性を説くと同時に、そもそも「本」に地球温暖化はヤバイのか？という問題提起がなされているんです。

エコやロスという単語を耳にするだけで、何が引くか。そんな居心地の悪さの正体を、解き明かしてくれよう。環境問題の現状を手取り早く理解するなら「図解 地球の真実」がオススメ。図解中心の薄い本なので、初心者でもわかりやすい。また、将来のことを知りたいなら、「2050年脱温暖化社会のライフスタイル」がいいでしょう。かなり具体的なところまで踏み込んで未来の日常生活を紹介している本なので、イメージしやすいはず。これらを読んでおけば、環境問題の話題を振られても、気の利いたコメントを返せるようになるはず。

さて、次のトピはキヤノンなタイトルが印象的な、寝ながら仕事。「睡眠学習」でも推奨しているのかと思いきや、「質の高い睡眠をとることで仕事も効率よくなる」という、誰も否定しないであろう睡眠の重要性を語った本だ。「15分程度の昼寝でリフレッシュ」「仮眠の前にコーヒーを飲むとよい」「朝、しっかりと光を浴びるとよい」など、何を今さら、と感じるを得ない内容が多い。仮に、百歩譲つてこれらを知らなかったとしても「就寝前にはテレビやパソコンは控えなさい」「朝起きたら、朝食をしつかりとるべし」までくると、うちのオカンを言っていることが変わらないではないか？



トピ社長のトピ手な成功体験本が影を潜めた昨今、小企業や個人経営者の成功体験本が増えてきた。その中で、先に紹介した経営者本とは線を画すワースト・トピ本が「素人カノ」。この本、資本金35万円、自宅で電話一本から起業し、今では冬山に登り、街ではハリレータビッドソンを乗りまわす、ちよいとワルおやじ、と自分で言う社長、自慢と嫌みに満ち溢れた成功体験記だ。著者の言を借りると、「自画自賛している自分に陶酔型のままだ」とトピ本の代表作と言えるだろう。